

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス共育コラム⑦

成長の足跡（あしあと）



試合や行事があった時には、必ず書いて提出するように言っているのがクラブノートです。入部して以来、ずっと綴っているもので、子ども自身の振り返りに役立てています。日常活動では、コーチがかなりの部分をフォローしてくれていますが、部員数や時間的な関係から、どうしても個々へ十分なアドバイスをいきわたらせることができていません。そこをノートへの返信でカバーするのに役立てています。

ノートは、入部以来、ずっと重ねて使用していますので、子どもの成長の“足跡（あしあと）”“が見えます。それはプレー内容のこともありますが、その子の理解度や気持ち、また、文字や文章を書くスキル、表現力の向上などもたどることができます。4年生の国語の説明文の学習が入ると、子どもたちの文章表現がいきなり変わります。学校の授業力の大きさを感じます。

子どもたちには、よく話しますが、現代スポーツは、トレーニング方法もプレー内容も、科学的な裏づけのもとに進められています。以前、コーチからも話してもらいました。ペーパーテストに点数化して表される「認知能力」といわれるものがあります。学習・理解力、思考・判断力などです。他方、「非認知能力」といわれるものがあります。認知能力の下支えになるもので、健康な心身、がんばる気持ち、へこたれないねばり強さ、自分のことは自分でやってみる気持ち、自分で選んで自分で決めてチャレンジする気持ち、みんなと協力できる規範意識や道徳性・社会性などです。下支えとなる非認知能力を高めることなく、点数化される認知能力ばかりをなんとかしようと思ってもなにもなりません。「意欲と主体性」、「自己選択と自己決定」、「自律と自立」など、このように表現されることを、日常生活や活動のなかで発揮できる環境づくりや、促すかわかりができていくかどうか、とても重要です。

そういった意味から、今は、ただやみくもに体を動かし鍛え上げるということではなく、プレーについて学習し、トレーニングの意味を理解し、なりたい自分になるために、どんな練習をどれくらいするか、まずは自分（たち）で考えます。子どものふりかえりの内容と、私たち指導者の意見をすり合わせて、メニューを作成しています。

クラブノートのふりかえりの内容とプレーの成長は比例します。つまり、学習・理解力が高まればプレーもレベルアップするということです。プレーが先行していても、非認知能力を支えとする学習・理解力等が伴わなければ、チームとしてプレーするようになると壁にあたります。プレーのレベルアップは、認知能力と非認知能力をセットで高めていくことで効果が現れます。

